

地域ネットワーク医療部 / 地域医療連携室

Department of Community Network and Collaborative Medicine
and the Regional Medical Liaison Office

地域ネットワーク医療部長

横出 正之



患者さんご家族の思いを大切に

当部は2000年8月に院内措置で設置され、2003年4月に地域ネットワーク医療部が、2004年5月には地域医療連携室が発足した。患者さんと家族の希望を汲み取りながら、質の高い医療を提供するために、言い換えれば、生活の質を保ちながら療養が可能となるように、患者支援計画の立案・調整を行っている。地域の介護サービス機関、医療機関とも密に連携をとっている。

地域医療連携室では、他医療機関からの紹介予約、および逆紹介、セカンドオピニオンの対応を行い、以下の業務にあたっている。

- ①退院調整(自宅退院・転院) ②在宅療養支援(外来患者相談) ③地域の医療、介護および福祉機関との連携 ④教育・専門家の育成

代表的診療対象疾患

全診療、全疾患に対応。医療・介護の環境整備を行うことの重要性が病院内で認知されており、乳幼児から90歳以上の高齢者まで実にさまざまな患者さんの支援を担当している。

業務内容の特徴と実績

ソーシャルワーカーと看護師が一体となって活動

2014年4月現在、医療ソーシャルワーカー6名、専任看護師2名(看護師長1名、看護師1名)、医師2名(専任1名)、事務職員2名、地域連携事務職員8名が勤務している。ソーシャルワーカーと看護師が一体となって活動しており、病状、生活環境に応じた適切な社会資源を患者さんと家族に提供していくのに適切な体制となっている。スタッフによる患者さんと家族への面談も支援のなかで重視している。医学情報は主として依頼科医療スタッフより収集しているが、毎日行われている専任医師を含むカンファレンスも支援の方向性を決める為に役立っている。また、週1回全病棟のラウンドも実施。地域の在宅医・訪問看護・ケアマネジャー・地域包括センターと連携しながら、必要時カンファレンスを行うこともある。地域医療連携室は、地域の医療機関との連携に欠かせない存在である。2013年度の新規支援依頼総数は1,613件、うち41%は在宅療養へ向けた退院支援、29%は転院支援、28%が外来通院中の患者・家族への

療養・介護支援、2%は療養上の問題支援だった。地域医療連携室での紹介予約件数は10,370件であった。



新しい取り組み

情報共有や勉強会を実施

- ①電子カルテに医療ソーシャルワーカーと看護師が支援経過を入力することにより、当部以外の医療スタッフと情報を共有できるようにしている。
- ②地域のさまざまな医療および福祉機関、関連行政機関などで行われる研究会、研修会に積極的に参加、あるいは主体となって開催している。患者さんを中心とした医療を実現するための社会的啓蒙、システム作りが目的である。

- ③他施設より研修を受け入れ、人材育成に寄与している。
- ④地域医療機関が何を京大病院に求めているかを情報収集し、院内に通知を心がけている。